

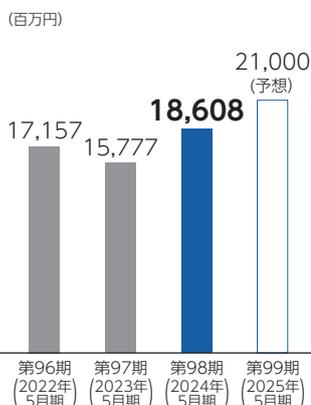
業績のハイライト

2024年5月期 業績

売上高

18,608百万円

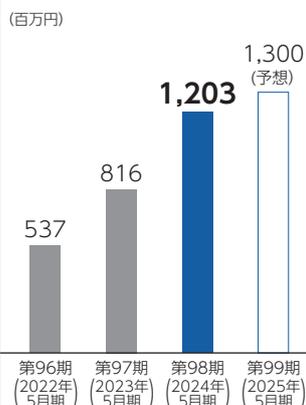
前期比 17.9%増 ↑



営業利益

1,203百万円

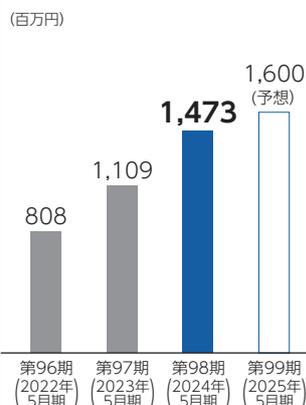
前期比 47.3%増 ↑



経常利益

1,473百万円

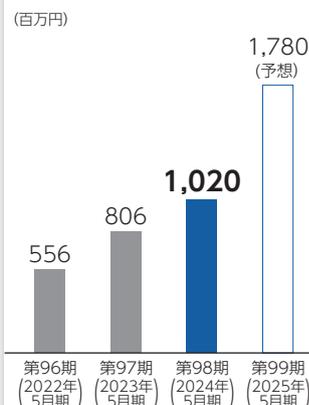
前期比 32.8%増 ↑



当期純利益

1,020百万円

前期比 26.6%増 ↑



2025年5月期 業績予想

売上高

21,000百万円

前期比 12.8%増 ↑



詳細は、当社ホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。

<https://www.nakakita-s.co.jp/ir>

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第98期(2023年6月1日から2024年5月31日まで)の決算が終了いたしましたので、ここに「第98期年次報告書」をお届け申し上げます。



代表取締役社長 宮田 彰久

■事業の概況

(1) 事業の経過および成果

当期におけるわが国経済は、雇用・所得環境、企業収益が改善しているなかで、設備投資にも持ち直しの動きがみられ、景気は緩やかに回復しております。しかしながら、物価の上昇に加え、世界的な金融引締めに伴う海外景気の下振れがわが国の景気を下押しするリスクもあり、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

当社の主要な受注先の造船業界では、新造船需要が改善しております。当社は需要が拡大する船用関連に加え、発電プラント等陸用関連においても、国内外で積極的な営業活動を行い、顧客ニーズの掘り起こしに努める提案型営業活動を展開し、受注獲得に努め、修理やメンテナンス関連の部品注文獲得にも注力しました。

当期における受注高は、22,637百万円(対前期比20.5%増)となり、3,855百万円前期を上回りました。品種別にみますと、自動調節弁8,177百万円、パタフライ弁8,985百万円、遠隔操作装置5,475百万円となり、対前期比では、自動調節弁は190百万円、パタフライ弁は2,950百万円、遠隔操作装置は714百万円の増加となりました。

売上高では、18,608百万円(対前期比17.9%増)となり、2,831百万円前期を上回りました。品種別では、自動調節弁7,920百万円、パタフライ弁5,873百万円、遠隔操作装置4,814百万円となり、対前期比では、自動調節弁は1,201百万円、パタフライ弁は899百万円、遠隔操作装置は730百万円の増加となりました。輸出関連の売上高は、2,648百万円となり、前期を543百万円上回りました。当期末の受注残高は期首に比べて4,028百万円増の16,133百万円となりました。

利益面では、営業利益は1,203百万円(対前期比47.3%増)、経常利益は1,473百万円(対前期比32.8%増)、当期純利益は1,020百万円(対前期比26.6%増)といずれも前期を上回りました。

(2) 対処すべき課題

当社の製造は、すべてお客様の仕様による「ものづくり」ということで、基本的に多品種少量生産となります。したがって、当社のもので、一品一様なおお客様の仕様を満足することと、生産性向上という相反することの実現が永遠の命題となります。当社は、この永遠の命題に飽くなき努力を重ね、売上高の拡大、利益率の改善に取り組んで行くことが、第一義的課題であると認識しております。

国内の景気は、緩やかな回復が続くことが期待されるものの、物価の上昇や、世界的な金融引締めに伴う海外景気の下振れが景気を下押しするリスクもあり、先行き不透明な状況にあります。当社の主要な受注先の造船業界では、新造船需要が改善しておりますが、脱炭素化、労働人口の減少等外部環境の変化に、海運会社や造船会社は環境対応船へのシフトやデジタル化等の対応を進めており、船用機器メーカーにも環境対応船やデジタル化への対応が求められております。足元大きな影響はありませんが、対応の優劣が今後の業容の維持、拡大に影響を及ぼすものと考えております。

このような経営環境のなか、以下の取組みにより、企業体質の強化に努めてまいります。

- ① M&A、協業を含む攻めの投資促進と海外展開の強化
- ② 顧客関係管理による提案型営業活動、国内外アフターサービス体制の強化
- ③ 脱炭素に寄与する製品開発と販売促進、データを活用したコト売り事業の創出
- ④ DX、マスカスタマイゼーション生産体制の構築による生産性向上
- ⑤ 多様な人材の確保および育成、技能伝承

株主のみなさまにおかれましても、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

NAKAKITA



▲本館

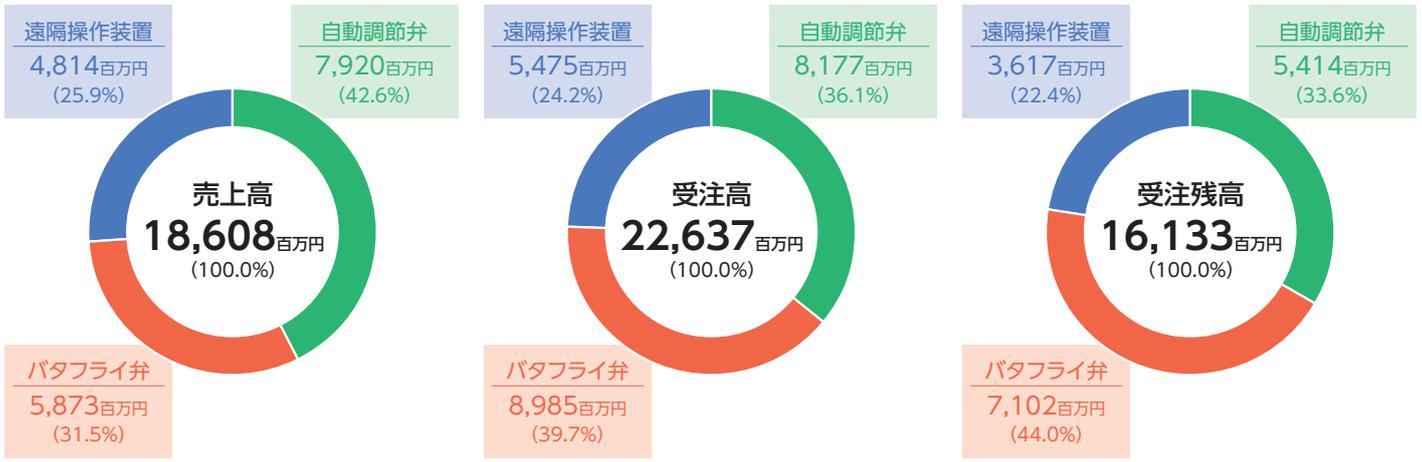
バルブを中心とした
流体制御装置の総合メーカー



▲工場全景

効率化を図った業務体制と先進の設備を誇る製造拠点、
中北のハイレベルな製品はここから生まれます。

当期中の品種別売上高・受注の状況



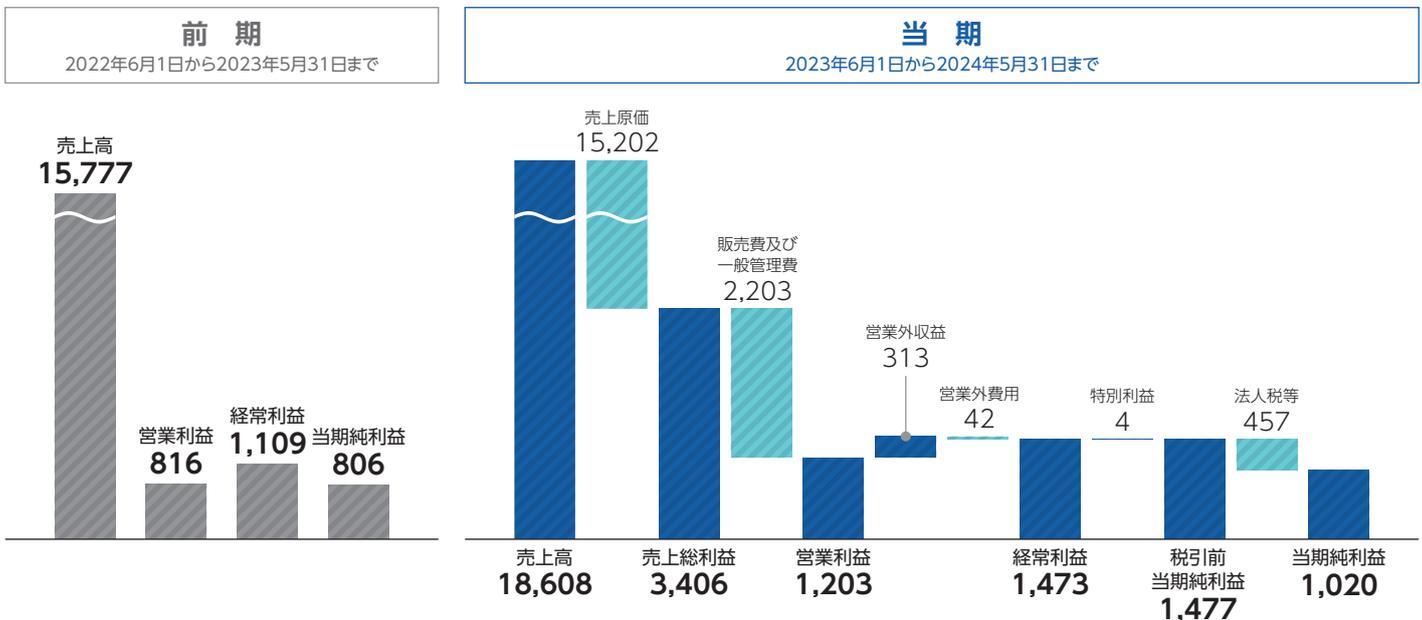
財務諸表 (要約)

詳細は、当社ホームページに掲載されている「IR情報」をご覧ください。
<https://www.nakakita-s.co.jp/ir>



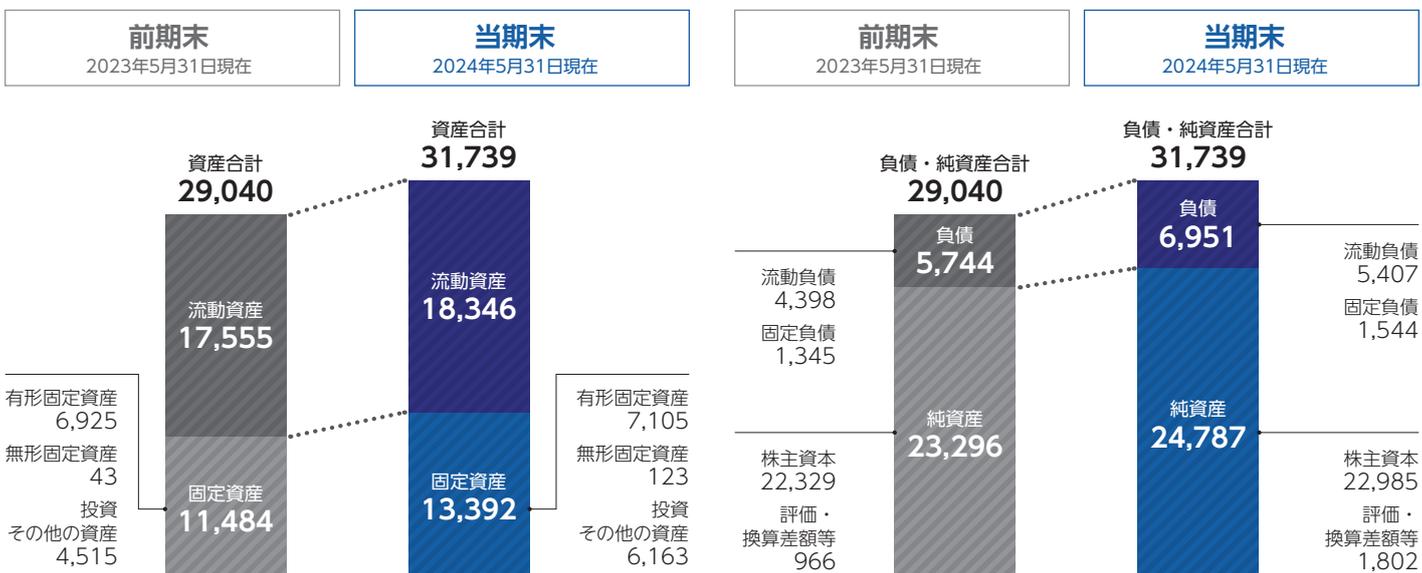
損益計算書のポイント

(単位：百万円)



貸借対照表のポイント

(単位：百万円)



(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要

商号 株式会社 中北製作所
本店 大阪府大東市深野南町1番1号
会社の設立 1937年5月11日
資本金 11億5千万円
主な事業内容 自動調節弁、バタフライ弁、遠隔操作装置の製造販売

事業所所在地

本社・工場 大阪府大東市深野南町1番1号
電話 072-871-1331(代)
東京営業所 東京都港区海岸三丁目18番1号
ピアシティ芝浦ビル3階
電話 03-4212-6315(代)
北九州営業所 福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目11番15号
小倉興産KMM別館
電話 093-531-5481(代)

役員

取締役会長 中北 健一
取締役副会長 池田 昭彦
代表取締役社長 宮田 彰久
取締役 由上 晃規
取締役(社外) 大井 成夫
取締役(社外) 山本 和人
常勤監査役 黒木 宣行
監査役(社外) 北山 裕昭
監査役(社外) 藤井 秀延

株式の状況

発行可能株式総数 15,232,800株
発行済株式の総数 3,832,800株
当期末株主数 1,688名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社ミヤキタコーポレーション	442	12.52
中北 健一	264	7.50
宮田 彰久	114	3.24
黒田 知子	114	3.23
中北 仁子	114	3.23
渡部 育子	114	3.23
宮田 和子	109	3.09
宮田 宏章	106	3.01
由上 知恵子	97	2.75
中北 節子	93	2.65

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式301,827株を控除して算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当金 毎年11月30日
上記のほか必要ある場合は、あらかじめ公告して基準日を定めます。

公告方法 当社の公告は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行く。なお、電子公告は当社のホームページに掲載し、電子公告を掲載する当社のホームページアドレスは次のとおりであります。
<https://www.nakakita-s.co.jp>

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所 スタンダード市場

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の電話照会先までご連絡ください。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031
受付時間 9:00~17:00(土日休日を除く)

(インターネット) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>
(ホームページURL)

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

Topics

- ・2024年4月10日から12日までの3日間、東京ビッグサイトにて開催の国際海事展「Sea Japan 2024」に出展し、液化水素用バタフライ弁の展示や次世代燃料向け製品の紹介、燃費向上を目指したソリューションの提案をいたしました。
- ・今号より報告書をリニューアルいたしました。
当社は今後もより見やすく、わかりやすい誌面づくりを目指します。